様式2

平成29年度　自己評価表

鳥取県立八頭高等学校

中期目標（学校ビジョン）

1　主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
2　チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。
3　地域連携の主体となり、地域に根差した学校としての役割を果たす。

今年度の重点目標

1. 八頭高生らしい態度の育成　①家庭学習の習慣化　②学習と部活動の両立
   ③自治精神に満ちた活発な生徒会活動　④良好な人間関係が築ける生徒の育成
2. 生徒が主体的に学習する授業改革
3. 自らの進路を決定し、達成する能力の育成
4. 八頭地域の小中学校と連携し、地域貢献できる生徒の育成

年度当初					評価結果（　　）月		
評価項目	評価の具体項目	現状（平成28年度実績等）	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
八頭高生らしい態度の育成	家庭学習の習慣化、学習と部活動の両立	（1）82%の生徒が、八頭高に入学して良かったと思っている（保護者89%） （2）96%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけ（保護者98%、職員96%）、85%の生徒が授業の予鈴で着席する等、授業時間を大切にしている（職員69%）。また、80%の生徒が、八頭高は地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると考えている（保護者79%、職員94%）。 （3）62%の保護者に、学校の生徒指導方針がよく伝わっている。 （4）自宅学習を毎日行っている生徒は58%（1年44%、2年50%、3年78%）であり、58%の生徒（保護者67%、職員58%）が学業と部活動の両立を果たしていると考えている。スマホ利用時間の1日当たり2時間以内（10月以降6回調査）は1年45%、2年46%、3年81%であり、22時以降に利用しない生徒は1年14%、2年13%、3年52%である。	（1）90%以上の生徒が、八頭高に入学して良かったと思っている。 （2）すべての生徒が学校・社会のルールやマナーを守り、校内・校外を問わず、気持ちの良い挨拶、制服の正しい着こなしが実践され、地域社会から高い評価を得ている。 （3）80%以上の保護者に、学校の生徒指導方針がよく伝わっている。 （4）高校生にとって学業への専念が第一義の目的であること、その一方で、部活動が人間力を伸ばす何物にも代えがたい経験であることを理解した上で、70%以上の生徒が自宅学習を毎日行い、学習と部活動を両立させている。	（1）（2）（3）PTA総会・個人懇談、八頭高ホームページ等を通して、生徒指導方針について保護者の十全な理解を図り、生徒・職員・保護者の緊密な連携により、自主性や自律性を育む生徒指導を行う。学校評価アンケート（生徒・保護者・職員対象）結果、および生徒・保護者の声を検討し、教育活動の改善に活かす。 （2）挨拶の重要性、公共マナーの遵守等、教職員一人ひとりが同じ規準で粘り強く指導を続ける。スマホ利用調査を継続実施し、保護者との連携を図りながら長時間利用者の指導を継続する。 （4）クラス担任、教科担任、部活動顧問が連携して、自宅学習時間の確保を図る（部活動開始終了時刻の厳守、クラス担任・部活動顧問の自宅学習時間・進路志望等の情報共有）。			
	自治精神に満ちた活発な生徒会活動、良好な人間が築ける生徒の育成	（1）「八頭高愛し愛され運動」の参加者は第1回（6月）220名、第2回（11月）189名であり、八頭高から郡家駅までのゴミ拾い、八頭高校前駅の清掃等を行った。また、八頭町立小学校閉校式における書道パフォーマンス・吹奏楽演奏、生徒会執行部による熊本地震義援金の募金活動等を通して、地域を愛し地域から愛される八頭高生のアイデンティティー確立を図った。 （2）体験入学（8月）には中学3年生583名、保護者・中学校教員86名、八頭高ライフ体験には八頭郡内の中学2年生244名が参加し、八頭高校の魅力を発信した。翠陵祭（8・9月3日間）では、生徒が主体的に企画・運営を行い、達成体験を得ることができた。 （3）85%の生徒が、八頭高はいじめや差別を許さない実践力を育成する人権教育を推進していると考えており（保護者81%、職員83%）、90%の生徒が安全に配慮された教育を受けていると感じている（保護者93%、職員86%）。 （4）78%の生徒（保護者69%、職員90%）は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。	（1）生徒主体のボランティア活動が年間を通じて実施され、「八頭高愛し愛され運動」の参加者が400名を超えている。 （2）中学生体験入学、翠陵祭、八頭高ライフ体験等において、生徒が主体となって企画・実施に取り組み、達成体験を積み重ね、自治精神を醸成する。 （3）90%以上の生徒が、八頭高ではいじめや差別を許さない教育が実践されていると考え、安心・安全な学校生活を送っている。 （4）80%以上の生徒（保護者）が、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。	（1）（2）「八頭高愛し愛され運動」等を通して地域社会から高い評価を得ることによって、自己肯定感・有用感を高め、八頭高生としてのアイデンティティーを育む。また、生徒会による県外研修（東日本大震災被災地）を実施し、広い視野をもち社会に貢献することの意義を生徒総会等のさまざまな場面において伝える。 （3）（4）hyper－QU、個別面談等を通して生徒の悩みを十分に把握し、教育相談・特別支援教育、人権教育等のさらなる推進により、生徒が安心・安全な学校生活を送れるように支援する。			
生徒が主体的に学習する授業改革	将来にわたる主体的学習者の育成	（1）全教科（18名、延べ20回）において研究授業・公開授業を実施した。 （2）年2回（6月、9月）、アクティブ・ラーニング研修会を実施し、校外から47名が参加した。また、93%の職員が授業改革等に関する校内外研修会に参加し、全教科17名が教科指導に関する県外各種研究会に参加した。 （3）1日当たりの自宅学習時間（11月）の平均は、1年80分、2年62分、3年195分であり、1年2時間以上18%、2年3時間以上5%、3年4時間以上39%である。	（1）（2）全教科で研究授業・研究協議を実施し、アクティブ・ラーニングに八頭高全体で積極的に取り組んでおり、90%以上の職員が校内外の研修・研究会に参加している。 （3）1日当たりの自宅学習時間平均が、1年120分、2年180分、3年240分である。	**（1）（2）全教科において研究授業・公開授業を実施し、予習・復習の定着、学力向上等につながる学びを促すために、アクティブ・ラーニング型授業方法を検証する。授業改革等に関する各種研修会に積極的に参加し、授業力の向上を図る。** **（3）学習評価アンケート、自宅学習時間調査等に基づく細やかな面接指導・教科指導や土曜自習・質問教室、放課後自習室等を通して主体的な学習を促し、進路目標を達成するための自宅学習時間を確保させる。**			
自らの進路を決定し、達成する能力の育成	キャリア設計、進路決定と自己実現	（1）進路を実現するために目標に向かって努力している生徒（12月）は、1年59%、2年68%、3年89%である。 （2）進路志望未定者（11月）は、1年8名（4月11名）、2年0名（1年4月54名）、3年2名（1年4月19名）である。 （3）国公立大学志願者（11月）は、1年153名（4月159名）、2年152名（1年4月149名）、3年116名（1年4月180名）である。大学入試センター試験受験者は176名（総合・探究コースの74%）であり、前年度比で18%増加し、国公立大学合格者は51名（過卒生を含む、昨年度43名）である。	（1）進路実現に向けて努力している生徒の割合が、1年70%以上、2年80%以上、3年100%である。 （2）進路志望未定者がなくなり、すべての生徒が自分の進路を実現するために努力している。 （3）国公立大学志願率が増加し、国公立大学合格者は60名を超えている。	（1）（2）（3）キャリア教育全体計画に基づき、「夢ナビ」ライブ、進路講演会、進路学習「大学生に聞く」、長期休業中補習、勉強合宿、定期考査前錬成補習、土曜自習・質問教室、土曜サテライン授業等を実施するとともに、クラス担任、教科担任による面接指導を適宜実施することによって進路意識を明確にし、進路実現をより確かなものにする。 （3）土曜自習・質問教室（OBOG大学生をアシスタントティーチャーとして招聘）、錬成補習、土曜サテライン授業、勉強合宿等によって、大学入試センター試験に対応し国公立大学に合格できる学力を身につける。			
	各コース（探究・総合・体育）の活性化	【探究コース】探究ゼミでは、鳥取環境大学教授の講演（5月）、企業家訪問（6月）と並行して個別ゼミによる研究活動が行われ、中間発表会（10月）、最終発表会（2月、15分野）を開催し、鳥取大学体験実習（11月）を全学部9コースで実施した。 【総合コース】クラス・生徒の興味・関心にあわせて企業・大学等研修を実施し、進路意識を高めた。 【体育コース】体育コース集会（毎月）、オリエンテーション合宿（4月）、ウェイトトレーニング講習（5月）、郡家東・西小学校スポーツテスト指導（6月）、臨海実習（7月）、集団行動（9月）、コンディショニング講習（10月）、エアロビック講習会（11月）、バランス改善エクササイズ（1月）等による特色ある行事と合わせて、学習面・生活面に踏み込んだ指導を行った。体育コース生の全国大会出場は35名（延べ42名）である。	【探究コース】生徒自らが課題を見つけ研究テーマを設定する積極的な探究ゼミが行われているとともに、鳥取大学体験実習が全学部で実施されている。 【総合コース】研修旅行（企業・大学等研修）が、生徒の進路意識を高める日程・内容となっている。 【体育コース】全国大会出場者が30名以上であり、学校生活、部活動をリードしている。	【探究コース】鳥取環境大学、企業、地域等との連携を図り、探究ゼミのより一層のレベルアップを図る。鳥取大学との連携を密にして、体験実習を全学部で実施する。 【総合コース】進路志望が多様であるコースの特色を出すために、生徒の興味・関心に基づいた特色ある研修旅行を実施する。 【体育コース】特色ある行事を継続実施し、学習面、生活面の充実を図り、学校生活、部活動のリーダーとしての自覚を促す。			
地域貢献できる人材の育成	八頭地域の小中学校等との連携推進	（1）八頭タワー（平成26～28年度教科でつながる「鳥取発スクラム教育」）充実事業として、スクラムリーダー会（週1回）、数学授業研究会（6・10月、中学校・高校における高校教員の授業）、夏季・冬季特別勉強会（7・12月、八頭高生・八頭郡内中学生参加）等を実施し、八頭郡内の中学校と連携を図り、その成果を鳥取県教育研究大会（11月）において発表した。 （2）文科省英語教育強化拠点事業（平成26～29年度）による授業研究会（7月）、中間報告会（11月、2日間）を開催し、小中高の英語教育実践について研究協議を行い、文科省全国連絡協議会（2月）において、今年度の成果を発表した。	（1）中高の現状を把握し、中学生と高校生の学び合いを通して学力向上を目指している。 （2）小中高の課題を共有した上で、小中高の連続した学びをレベルアップさせるために、効果的な指導法を研究・実践している。	（1）八頭タワー充実事業（平成26～28年度）を引き継ぎ、中高合同授業研究会、八頭高ライフ体験、長期休業中の特別勉強会等の継続実施によって、中高連携による授業力向上、学力向上を図る。 （2）文科省英語教育強化拠点事業の最終年度として、4年間の研究成果に基づき小中高連携のあり方に関する提言を行う。			

評価基準　A：十分達成〔90%〕　B：概ね達成〔80%程度〕　C：変化の兆し〔60%程度〕　D：まだ不十分〔40%程度〕　E：目標・方策の見直し〔30%以下〕